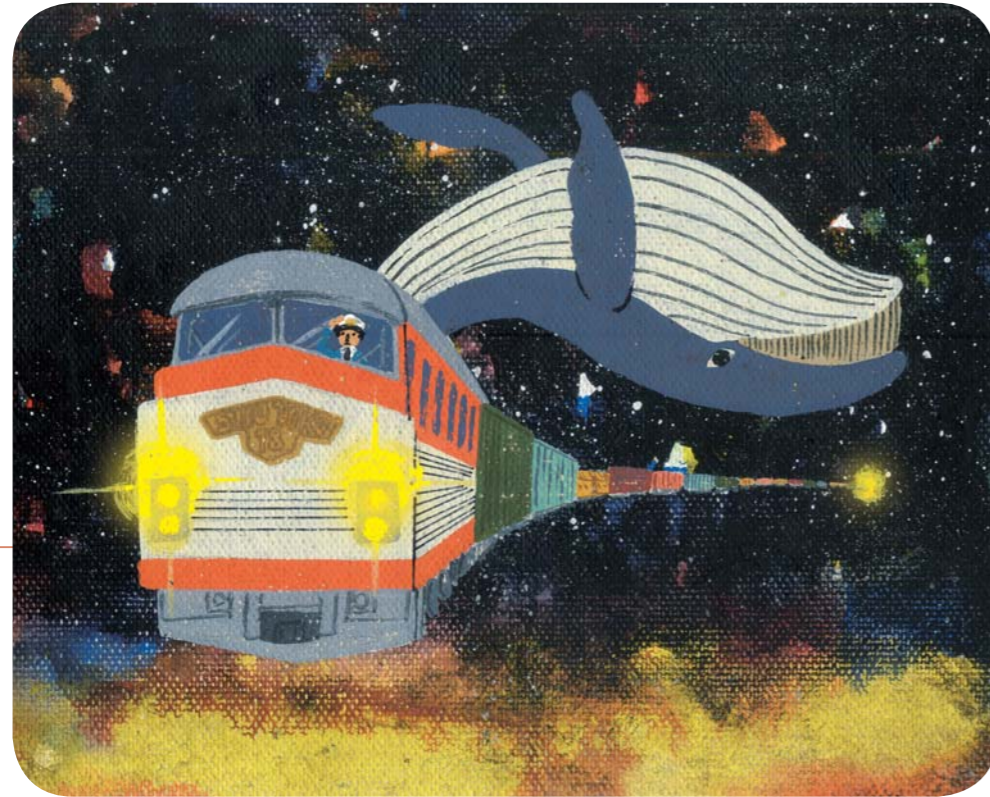


illustration by Takao Nakagawa



column | RAMPWAY 18

首都高名所案内  
汐留を貨物線が  
走っていた頃  
コラムニスト  
泉 麻人

首都高速の都心環状線を谷町、飯倉の方から走ってきて、浜崎橋JCTを銀座方向へ左折するとまもなく汐留の降り口がある。80年代の初め、築地市場近くの出版社に勤務していた頃、この汐留出口をよく利用した。

社が入っていたビルは新大橋通りが大きくカーブを切る一角で、当時すぐ横を汐留貨物駅と市場を結ぶ貨物線が走っていた。運行しているのはだいたいの夜更けや早朝だったが、にわかにかんかんかん……と踏切の警笛が鳴って、単線の線路を貨物車がぞろぞろと走ってくる光景がなつかしい(いまそこはどことなく面影を残す一方通行路

になっている)。

なぜ、そんな夜更けや早朝の光景を記憶しているかというと、雑誌編集部ゆえ、入稿や校了作業で夜中まで社にいたことがあったからだ。当時、オフィスの真向いあたりの築地市場の片隅に、市場へやってくるトラック運手相手の屋台や TENT 張りのメシ屋が出ていた。僕らもおそくなるとそこへ立ち寄って、ラーメンやらモツ煮こみやらを腹にかっこんだ。ビールのつまみによく取った、クジラベーコンの味が忘れられない。その屋台群は、僕が社を退めてフリーになってまもなく、規制が厳しくなって撤去されてしまったらしい。

を被ったり、往年のサーファールックに身を包んだりして、昔のステップで踊った思い出がある。いま「ゆりかもめ」の車窓越しにメガリスの会場を探しても、どの辺だったのか……見当もつかない。

貨物線の出元だった汐留のターミナルビルも、80年代の後半には廃止されて、再開発が進み始めた。あのイペントは、「メガリス88」と付いていたからバブル盛りの88年のことだろう。まだビル建設が始まる以前の空地の一角に、仮設のライブハウスとディスコが設置され、僕もひと月ばかり、ディスコのゲストプロデューサーみたいな仕事を任されたことがあった。60年代、

高速を挟んで海側に広がる浜離宮庭園は、昔と変わらぬ緑の景観を見せている。江戸時代の初期、6代将軍・徳川家宣の時代に「浜御殿」の名でいまの庭園の原型が整えられ、幕末から明治にかけては外国の要人を招く迎賓館として利用された。清澄庭園と同じく、潮の干満を眺める回遊式の池がこの見所でもある。水上バスが発着所があるので、浅草やお台場の方から水辺を通過してアプローチするのも一興だ。

70年代、80年代と週替わりで店内装飾や選曲をアレンジして、プロデューサーの僕も時折アフロヘアーのカツラ

いずみ あさと / 1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。「週刊TVガイド」などの編集者を経て、フリーのコラムニスト。近著に『大東京23区散歩』(講談社)がある。

2 コラム RAMPWAY  
泉 麻人

特集 都市景観

- 5 まちづくりの視点  
日本大学 理工学部 まちづくり工学科 教授  
天野光一
- 9 まちの色彩を創る  
色彩計画家  
吉田慎悟
- 13 データ物語  
都市景観としての首都高  
——「路線別サイン型」から  
「景観調和型」へ
- 14 コラム オン・ザ・ロード  
三木 卓
- 16 首都高HEADLINE
- 18 business essay  
オマーンのみちをいく  
総合地球環境学研究所  
研究高度化支援センター 准教授  
近藤康久
- 20 つくる人まもる人  
首都高トールサービス西東京株式会社  
濱口恭雄
- 22 高速百景 中野正貴

cover photo by Minoru Saito  
contents produced by  
Metropolitan Expressway Company Limited